

# こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2019年11月

第67号

## 主な予定

### 市政功労者表彰

11月16日(土)

於: アミュゼ柏

### スタンプラリー

11月24日(日)

9:30~15:30

### 日本造園学会関東 支部見学会

11月24日(日)

### さわやか千葉県民 プラザ主催

### ヤングパワームー ブメント

11月30日(土)

### 忘年会

12月14日(土)

13:00~

## 9月の活動報告

### 9月16日(月) 土壌動物による自然の豊かさ調べ

上田 真佐江

土の中にも多くの動物が住んでいます。落ち葉や菌類を食べるトビムシやヤスデ、肉食性のオオムカデ、そして陸貝の仲間など。甲殻類のヨコエビは集めた土から飛び出してきます。

ある場所の環境状況を知るために使われる生物を「指標生物」と呼びます。土の中の動物を指標にした「自然の豊かさ」評価(青木淳一1995年)を用いて、こんぶくろでも環境モニタリングを行おうとしています。この方法は、土の中に住みついている動物を環境への適応力に応じて3グループに分けて点数化し、「自然の豊かさ」を測る方法です。今のところ「自然がよく保たれた自然林や社寺林:60~75点」と「成熟した雑木林:55~65点」の範囲で推移しています。

作業内容:

- ・ クロツバラ西の林縁及び林内において土集め(雨の中での採集)
- ・ 集めた土から土壌動物を採集(薄手のゴム手袋を準備し使用)
- ・ 土から採集した土壌生物、及びツルグレン装置稼働により土から出てきた土壌動物の簡易同定
- ・ 「自然の豊かさ」評価(青木1995年)、A、B、Cグループに属する土壌動物がいたら、それぞれ5点、3点、1点を加点する(個体数のカウントはしない)

天候: 雨のち曇り、気温22~26°C

活動参加者: 小川さん、徳永さん、橋本谷さん、上田

協力者: 岡野さん

2019年9月調査結果: 自然の豊かさ(青木1995年) 70点



ヒメミミズ (徳永さん撮影)



ヤスデ (徳永さん撮影)



イシムカデ (徳永さん撮影)



ハネカクシ (徳永さん撮影)

雨が降る中で土を集めたのは今回が初めてだった。オオメカメシや大型のアザミウマがいたが、土壤中に住んでいるものではないのでこれはカウントしない。

		2017年		2018年		2019年	
		5月27日	10月9日	6月2日	9月17日	6月22日	9月16日
A 5 点	ザトウムシ	5					
	オオムカデ	5	5	5	5	5	5
	陸貝	5	5	5	5	5	5
	ヤスデ	5	5	5	5	5	5
	ジムカデ		5	5	5	5	5
	アリヅカムシ					5	5
	コムカデ	5	5	5	5		
	ヨコエビ	5	5	5	5	5	5
	イシノミ						
	ヒメフナムシ	5	5	5	5		5
	B 3 点	カニムシ					
ミミズ		3	3	3	3	3	3
ナガコムシ				3			
アザミウマ			3	3			
イシムカデ		3	3	3	3	3	3
シロアリ							
ハサミムシ			3		3		
ガ (幼虫)		3	3	3	3	3	3
ワラジムシ		3	3	3	3	3	3
ゴミムシ		3				3	3
C 1 点	ゾウムシ	3		3	3	3	3
	甲虫 (幼虫)	3	3	3	3	3	3
	カメムシ	3	3	3	3	3	3
	甲虫	3	3	3	3	3	3
	トビムシ	1	1	1	1	1	1
	ダニ	1	1	1	1	1	1
	クモ	1	1	1	1	1	1
	ダンゴムシ	1	1	1	1	1	1
合計		<b>70</b>	<b>70</b>	<b>73</b>	<b>69</b>	<b>64</b>	<b>70</b>

※6月の調査でコムカデとしていたものは同定の誤りであったので、6月の記録からイシムカデの加点を除いた。

「自然の豊かさ」評価 (青木 1995 年) A-C グループに属する土壌動物が全ていたら 100 点になる。

A グループ：わずかな環境変化にも敏感に反応するグループ (5 点)

B グループ：A と C の中間のグループ (3 点)

## Cグループ：環境への適応力が高くどんな変化にも耐えられるグループ（1点）



集めた土を、ふるいにかけ、落ち葉や根などを除きます



土から飛び出すもの、動くもの、生物らしきもの、リクガイなどを採集します



双眼実体顕微鏡を用いて土壌動物の確認作業を行います



エタノールを入れたシャーレに浸した土壌動物（徳永さん撮影）

## 自然観察会・園内ガイド アンケート調査結果

藤原 俊和

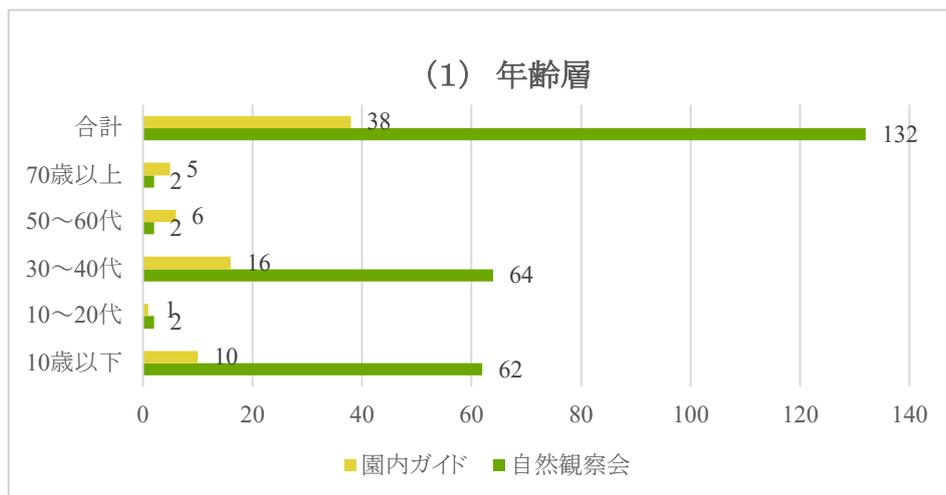
### 1. 観察会実施日とアンケート調査実施有無

	4月			5月	6月		7月		8月			9月	10月	合計
	7日	14日	21日	12日	2日	30日	6日	14日	3日	4日	24日	15日	20日	参加数
主テーマ		春の 自然				生き 物	夜の 昆虫		夜の 昆虫				キノ	
自然観察会 (事前受付)		○				○	*1		○				○	139
園内ガイド (当日受付)	○		○	○	○			○		○	*2	○		38

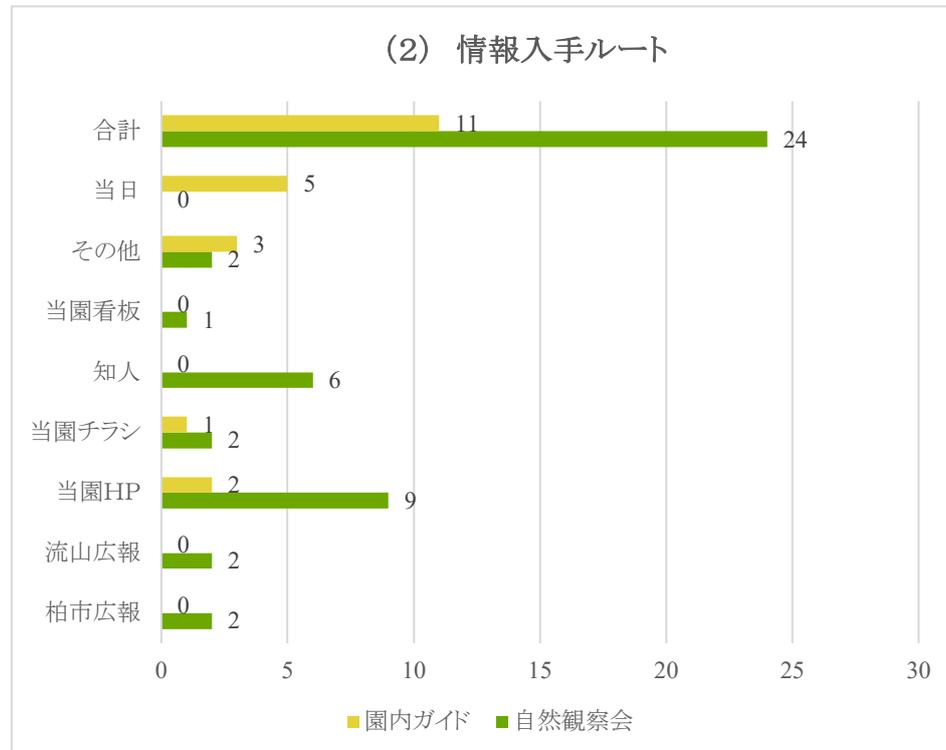
\*1：感想のみ

\*2：トラップ調査見学会、アンケート調査無し

## 2. アンケート調査結果



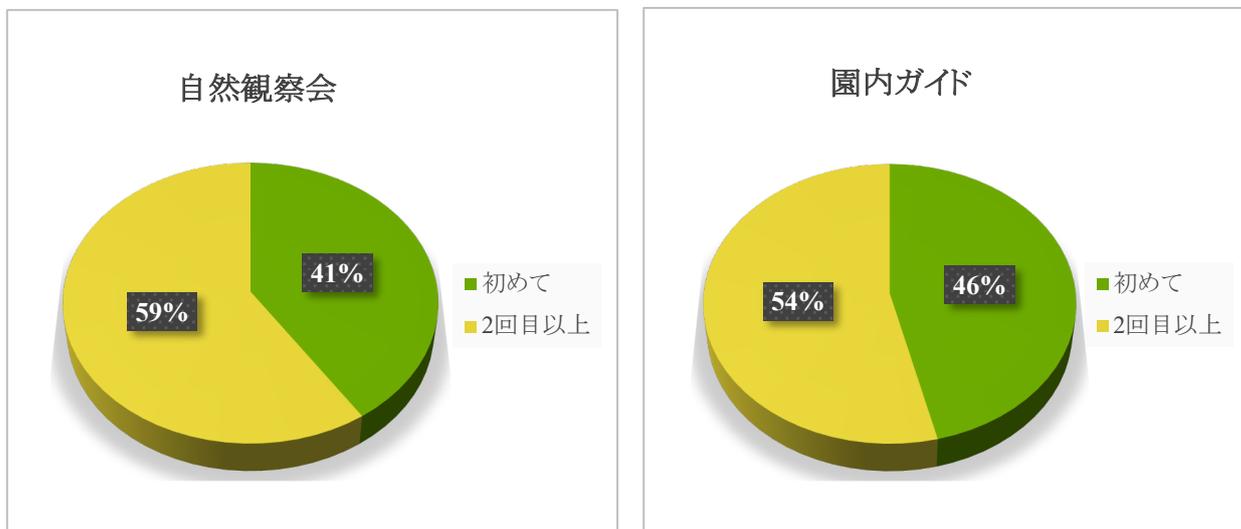
- ・ 自然観察会は、子供主体のテーマ設定とした結果、親子での参加が95%
- ・ 文科省等が定義している、感性は殆ど確立されるとしている、3歳~10歳の年代が自然観察会に参加しており、親の関心度が高いことが数値にも表れている
- ・ 一方、8歳以下の小学校低学年が大半で、この年頃から子供の生活様式の変化が伺える
- ・ 当日受付の園内ガイドは年配者（50歳以上）が29%と、想定していたより低い値であった



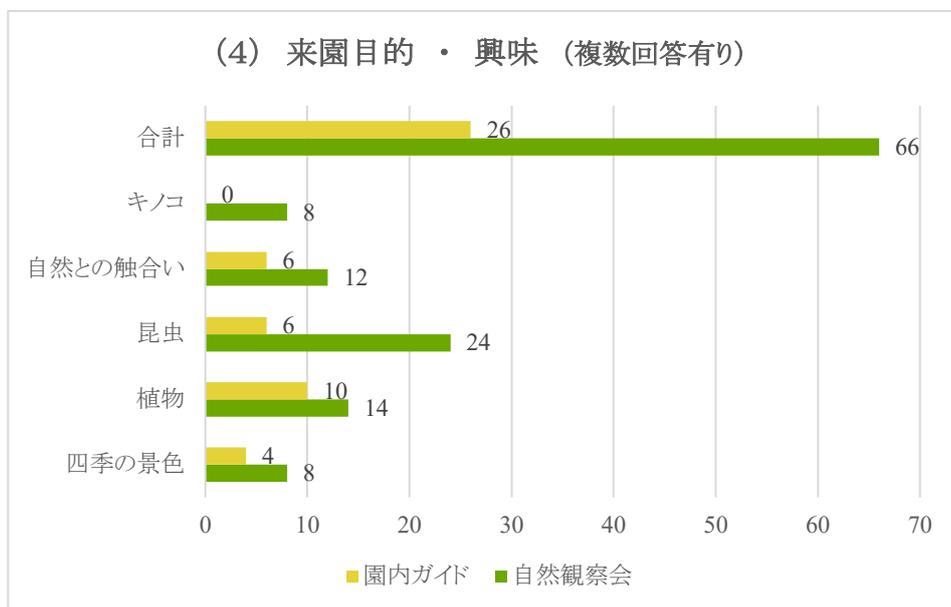
- ・ ホームページ（フェイスブック含む）の広報活動は、電子媒体が重要であることを裏付ける結果となっている
- ・ キノコ観察会が際立っている、口コミとなる知人紹介も、大きな広告媒体。推測であるがチラシの影響も含まれているのでは・・・

- 一方、高齢者は参加申し込み時のお話から、口コミ・広報・グループ活動等の情報ルートが多いと推測され、特に園内ガイドの紹介は、広報に半年分の計画を開示するのも一案と考えられる

### (3) 来園回数(生き物・トラップ調査見学会除く45件)

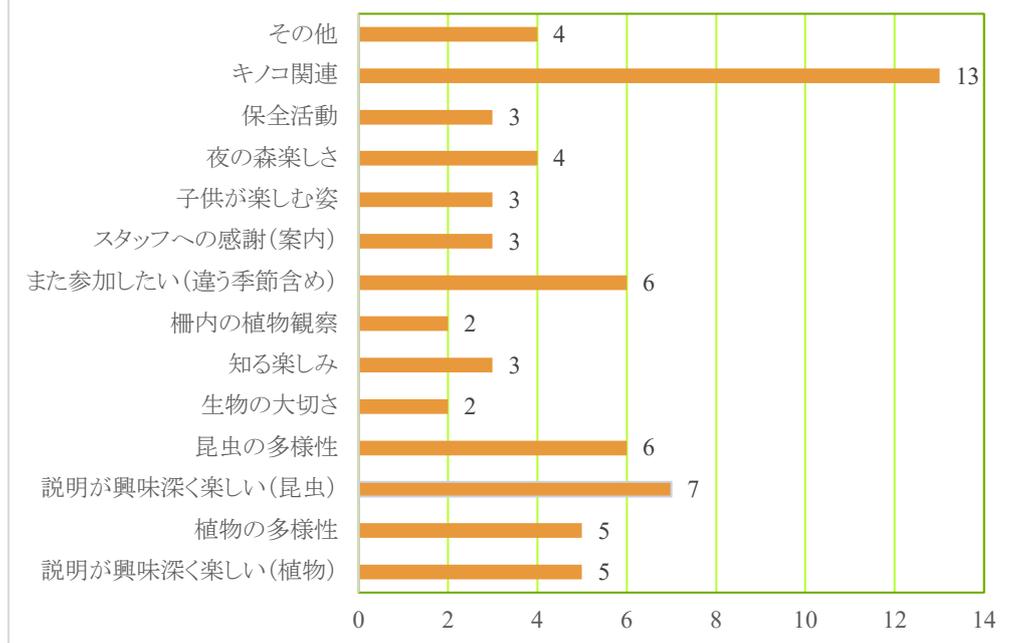


- 略半数の来園者が初めての来園であり、当園の知名度はまだままだのレベル



- 自然観察会では昆虫に特化した内容を多く実施したが、植物関連に興味を持たれている来園者も多く、春の自然観察会内容や(2)で記載した広報への開示方法は、来年以降の検討課題
- 森へ出かける楽しみは全般的なもので、四季を通して自然を楽しんでもらうための情報提供推進

## (5) 感想・印象深いポイント(複数回答有り)



- ・ 説明された観察会指導員の方々への評価は良好で、あらためて有難うございました（上記13件のキノコ関連は、キノコ採集・大作先生説明等のコメント）
- ・ 参加者に伝えたかった里山の自然は、充分理解して頂いていると思われる数値

## 3. まとめ

「持続可能な社会」をキーワードに、当園の定款である自然と共存する「まちづくりの推進」及び「こどもの健全育成を図る活動」に繋がる観察会の開催を目的として、4月から開始した手作りの観察会のまとめは、以上のアンケート調査結果の通りですが、特筆すべき内容は以下の通り。

- ① 昨年度の継承であったキノコ観察会も含め、一部講師のご協力もいただき、会員主体の観察会は（5）グラフの通り、感想・印象深いポイントは良好な評価をいただき、当初の目的は略達成できたと思います
- ② 一部の会員に依存する比率が高く、来年以降指導員の充実という大きな課題があり、急ぎ対策を講じていかないと、来年は難しい実情である。特に園内ガイドはこのままでは、継続不可
- ③ 観察指導員はある程度の知識は必要で、新会員への伝承や、隠れた里山班の適任者の掘り起こしが急務
- ④ キノコ観察会はお断りした申込者も含めると、総数70名程になり、現状のキノコ採集方法も含め運営方法の見直しが必要

- ⑤ 居住区分の調査結果は、キノコ観察会・T-Kids等、柏市に特化した広報活動が主であり、スタンプラリー&ワークショップでのデータを参考にまとめることとした

## こんぶくろカフェ

松田さんが短歌を嗜まれているのは皆さん既にご存知のことと思いますが、2019年度上半期における多くの投稿作品において、雑誌掲載や入選をされております。

今回賞を取られた作品をご紹介いただきましたので、披露させていただきます。

《**佳作**》NHK短歌テキスト2019年6月号掲載  
佐伯裕子選 歌題【先生】  
百姓の師と仰ぎたる祖父は言う労を惜しむな土を耕せ

《**佳作**》NHK短歌テキスト2019年7月号掲載  
佐佐木頼綱選 歌題【外国（テーマ）】  
片言の英語で道を尋ねれば達者な日本語返りくるパリ

《**特選**》日本歌人クラブ会誌「風」204号（2019年9月）  
クラブ歌壇「風」小塩卓哉選 【自由題】  
君去りて窓を開ければ何事も無かったような一面の雪  
〈歌評〉客が帰った後なのだろう。玄関を閉め、部屋に戻り窓を開けると一面に雪景色が広がっている。すべてを隠すその景色を見ると、わだかまりも消えてしまうのだ。何の用件できた客かはわからないことで、かえって印象が深くなった作品。

《**佳作**》NHK短歌テキスト2019年9月号掲載  
佐伯裕子選 歌題【歴史上の人物】  
暮れなずむ八幡宮を見上ぐれば「静（しずか）」なるかなむら雲の立つ

《**佳作**》NHK短歌テキスト2019年10月号掲載  
佐佐木頼綱選 歌題【肌】  
小麦色に焼けし素肌を誇らしく砂浜に行く君は向日葵

毎月のように入選しておられ、もう短歌界では有名な歌人ですね。今年度下半期の益々のご活躍と、こんぶくろ池カフェでの投稿も期待しています！

## 11 月理事会

2019 年 11 月 9 日（土）13:00～16:00

出席理事：岡本、上田、北田、中川、藤原、萩原

審議検討事項

1. スタンプラリー&ワークショップの準備状況確認
  - ・ 終了時刻：15:30 ⇒ 15:00（受付終了 14:30）  
日没時刻に合わせた後片付け作業のため
  - ・ テント設営：23 日（土）里山活動日に行う
2. 公園作りサポーター講座
  - ・ 12 月 8 日（日）10:00～12:00  
里山班と調査班の紹介、園内見学等
3. 地球環境基金の助成金申請
  - ・ 要望事項：12 月 2 日までに、来年度の木道整備を対象として申請。その先 3 年間分の計画要望事項も記載（山上）
4. NPO 設立 10 周年にあたり、「年譜と歩み」制作（記念事業）
  - ・ 作成委員メンバーの選出
  - ・ 年譜と歩みは年内を目処に作成

報告事項

1. キノコ観察会
  - ・ 今後の継続可否も含めて、観察会の運営方法について年内に会議を開催
  - ・ 20 年間継続した活動で、特に調査研究は続けて欲しい
2. ズミの葉 DNA 調査
  - ・ 東大福田先生へ提出済み（山上）

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。